

平成21年度文部科学省委託事業

「自然体験活動指導者養成研修会」報告書

【趣 旨】 小学校が実施する1週間の自然体験活動において、以下に示す内容を支援・指導するための人材（小学校長期自然体験活動指導者）を育成することを目的とする。

- (1) 小学校が実施する1週間の自然体験活動の計画に対して助言を行う。
- (2) 活動時に全体指導を行い、活動全体の様子を把握し、終了後には小学校が行う評価の際に助言を行う。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【後 援】 広島県教育委員会

【実施期間】 平成21年9月20日（日）～23日（水）

【会 場】 国立江田島青少年交流の家及び周辺の浜辺

【参加対象】 青少年教育関係者，学校教育関係者，その他自然体験活動に興味・関心のある者で，小学校の長期自然体験活動の全体指導者（20歳以上）として活動・協力する意志のある者

【参加者数】 20名

【講 師】 信州大学教育学部 教授	平野 吉直
まなび工房 代表	堀江 清二
大柿自然環境体験学習交流館 館長	西原 直久
日本赤十字社広島県支部 赤十字救急法指導員	山縣 圭子
国立江田島青少年交流の家	職 員

【企画・運営のポイント】

- (1) 仕事を持っている人たちも休みを取らずに参加できるよう、秋の大型連休に研修を行った。
- (2) 汎用性の視点から、施設内で活動でき、他の場所でも実施可能な「海辺の生物観察」を取り入れた。大柿自然環境体験学習交流館と連携することで、より専門的な指導法の習得ができるように努めた。
- (3) 企画立案に必要な不可欠なリスクマネジメントも、一体的に同じ講師にお願いすることにより、企画立案の際の理解を図りやすくした。
- (4) 研修時間以外を使って早朝登山を行い、今後、参加者が本施設を利用して活動する際の幅を広げようとした。
- (5) 講義・演習の場所を一箇所に固定し、参加者の移動時間を極力少なくすることで、集中して研修に取り組める環境を作った。

【活動の実際】



海辺の生物観察



イシガニの脱皮



カブトガニの観察



講義



体験活動の指導法



安全管理（救急措置）



安全管理（心肺蘇生）



野外炊飯①



野外炊飯②



協力ゲーム



プログラムの企画立案

【成果と課題】

（成果）

- ・ 海洋型施設の特色を生かし「海辺の生き物観察」を活動プログラムに導入したところ、参加者の評価もおおむね良好であった。遠方の兵庫県から参加された受講者からは「海辺の生き物観察が内容としてあるので参加した」という感想も出されるなど、参加者のニーズに合ったものになった。
- ・ 「海辺の生き物観察」の活動では、地元の施設である大柿自然環境体験学習交流館と連携し、より専門性の高い活動にすることができた。
- ・ 企画立案に必要な不可欠な安全管理（リスクマネジメント）も、一体的に同じ講師に依頼した。このことにより、企画立案の際の理解を図りやすくすることができた。

（課題）

- ・ 本事業で実施している内容は、本来なら教員に学んでほしい内容でもある。野外活動プログラムの企画立案ができる力を付けたいと考えている教員育成系の大学もある。そういった大学と連携して実施することも検討していく必要もある。